
書いてから読め！ 読んでから書け！

ごはんエロス

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

書いてから読め！ 読んでから書け！

【Nコード】

N7518E

【作者名】

ごほんエロス

【あらすじ】

文学の定義。これはなかなか難しい。答えがないような気がするが、文章を書く以上は常に念頭に入れておかねばならない。

書いてから読め！ 読んでから書け！

仲里先生の評価欄で行われた仲里先生と矢車先生の「文学の定義とは？」論争がやたら面白かったので、自分でも考えてみようと思う。

まず思い浮んだのがこんな感じ。

文字だけを使って、おもしろいものを作る。

なんかいきなり答えが出てしまった気がする。もちろん、文学だから詩や戯曲（脚本）、俳句、短歌、エッセイも含まれる。漫才台本もオレの中では文学だったりする。

うわ。つまんね。終わってしまったやん。

「ねえ、父ちゃん。オレのプリン食ったろう」

あ。こら。邪魔をすんじゃない。今、父ちゃん、真面目に語ってるんだから。

「何を語ってるの？」

文学の定義だよ。

「ふうん。何、文学の定義で何？」

そ、それはな。文字だけを使っておもしろいことをする。それが文学なんだよ。

「じゃあ、書道はどうなるの？」

え？

「あれも文学なの？」

書道は違うだろう。

「だって、あれおもしろいやん。例えば、「マツチヨ」て字を荒らしく書いたりさ、「オカマ」という字をなよなよした字で書いたりさ、見た目がおもしろいよ。文字しか使ってないし」

書いてから読め！ 読んでから書け！

ふりだしに戻った。

確かに、書道という手があったか。これはうかつだった。あれも確かに文字しか使わないでおもしろいことしてる。しかし、オレの場合、あれはどっちかというところ、絵画に分類されんねん。

短いから、という理由ではない。例えば、短くても俳句は文学だと思ふ。

古池や 蛙飛び込む 水の音

芭蕉の有名な句である。正直、これの素晴らしさはガキの頃はわからなかった。そのまんまやん。何がおもしろいねん、と。

しかし、大学生の頃、日本文学の先生に、「あれ、外人の生徒に読ますと、五十匹くらいの蛙が次々と飛び込む絵を想像して笑えるらしいね」という話を聞いた時、あれこれはひよつとしておもしろいのかな、という感じがした。

決定打は、社会人になってから読んだ芭蕉の伝記だ。

ある夜。芭蕉は仲間たちと句会を開いていた。近くに古池があるのでそれをテーマにやってみまひよか、てなノリで。

まあみんなおもしろいのを並べて、芭蕉もいろいろ考えた。しかし、

「古池や 蛙飛び込む」まではいいけど最後の一句がピンと来ない。

「柳の木」でもないし、「夜の月」でもないし。

みんなが「まあまあ師匠。柳の木でもけっこうイケますよ」と言っていたその時、ひらめいた。

水の音。

ぼちやああああああん。

みんなの頭に音が鳴り響いた。

「おお！ それはすげえ！ 最高だ！」

「さすが、師匠。天才！」

「てへへへへ」

これはお世辞ではないと思う。つまり、みんな、「古池」「蛙」「飛び込む」と来て「柳の木」と連想したのは、すべて目で見たもの、つまり、視覚的表現だけが念頭にあったからだ。それを、芭蕉はあえて、「水の音」と、耳、つまり聴覚に訴えたのだ。

静かな古池に蛙が飛び込んで柳の木がゆらゆら揺れてたら何のアクシヨンも起こらない。しかし、水の音を持つてきたことにより見事に静寂を突き破ったのだ。

視覚から聴覚への転位。ここにこの句のキモがある。

うる覚えだが、フランスの哲学者J・モリオールが、笑いを定義する時、「愉快な心理的転位」と確か表現した。差別の笑い、ズレの笑い、緊張を緩和させる笑いなどいくつかの笑い理論を考察しながらもピンとこなかった。ある時、なぜか理由は忘れたが、冷蔵庫を開いたらボーリングの玉が入っていて思わず吹き出してしまったらしい。「ボーリングの玉なんて入ってへんわ」という気分で、どんな気分や、とにかく、まあ普通入ってるなんて思わんやん。そんな気分で開けたら入ってた。つまり、心理的転位が起こったわけだね。入ってるわけじゃないやん、という気分から、入ってるやんという気分へね。

ただ、これで、コブラが冷蔵庫から出てきたら、笑えない。驚いて腰を抜かす。あくまでボーリングの玉だったから笑えた。これがつまり、「愉快的」心理的転位ということやね。

何の話だっけ？ 笑いの話？ 違う。違う。芭蕉か。いや、違う。違う。文学の定義。

もうダメだ。文学の定義はもうやめよう。俳句の時点でかなり枚数使ってる。別にオレは俳句が書きたいわけじゃない。

小説の定義にしよう。

これはオレの中でけっこう明確にある。

文字だけを使った自由で変幻自在な表現形式。

小説の発生した理由を考えるとよくわかる。小説が生まれる前にあったものは何かというと、短歌や戯曲であった。これらもちろん、おもしろいことはおもしろいのだが、いかんせん、形式が美しい。戯曲はそもそも舞台が設定されているので動きに制限があるのはしかたないし、短歌に至っては、五七五七七、とそれだけですべてを表現しないといかん。

「これはうつとおしい!!!」

そう考えた人たちが小説を発明した。

と、理解してる。つまり、小説というのは限りなく自由な表現形式なのだ。これは意外と見逃されてる事実。だって、漫画や映画が誕生しとるからね。あいつらと比べるとどうしても小説で制限だらけってイメージがあるよ。

でもまあひとまずはそれがオレの小説の定義。

あと、これも加えておこう。これが大事。だから、ちょっと書き直すね。

文字だけを使った自由で変幻自在なおもしろい表現。

やはり、おもしろいてのは外せない。笑いに限らずネ、手法が面白いとか、考えが面白いとか、いろいろ。

もつとも「つまらんもの書くぞ！」なんて気合入れてる人なんておらんか……。

「父ちゃん！ オレのアイスも食ったでしょう！」（了）

(後書き)

明治の作家たちががんばったおかげで、今、江戸時代以前の書き言葉から解き放たれてるでしょ？ しかし、今、小説って停滞してる感があるね。さらに解き放たれなければいけないのかもしれない。

書いてから読め！ 読んでから書け！

書いてから読め！ 読んでから書け！

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7518e/>

書いてから読め！ 読んでから書け！

2009年6月25日14時34分発行

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。